

## 社会福祉協議会会長あいさつ

社会福祉協議会の取り組みは、お困りごとの声に耳を傾けたり、こんな地域になるといいなという声を伺うことによって成り立っています。しかしながら、こうした地域の声に応えきれていないことは、まだまだ沢山あります。今回の第4次地域福祉活動計画策定にあたっては、そうした声を今一度捉えなおすことにより、これからの清瀬の社会福祉には何が必要かを改めて整理してきました。「思いが循環する やさしい清瀬」は、その集大成として考えられた、この計画の基本理念です。

コロナ禍は、これまでの地域福祉のあり方を大きく揺るがしました。当たり前に行っていた取り組みができなくなり、困りごとを抱えた人の問題が、これまで以上に見えにくくなっています。こうした先行きが見えにくい時代であるからこそ、やさしい清瀬にしていくために、一人一人の思いが形になり、その力がつながり、巡っていくことが必要なのだと思います。「思いが循環する やさしい清瀬」の考えです。

計画策定を終えたのは大きな節目ではありますが、大切なのはこれからの4年半の期間、この計画の考えを社会福祉協議会の職員がどれだけ意識し、着実に実行していけるかにあります。その道のりは決して平坦なものではないと思いますが、地域の皆さんの声を受け止め、共に関わっていくことが着実に計画を進めていく一歩になります。こうした力を育みながら、画に描いた餅で終わらないよう取り組んでいきたいと考えています。

末筆になりましたが、この計画策定にご尽力いただきました計画策定委員の皆様をはじめ、ご意見・ご協力くださった関係機関の皆さまに心より厚くお礼申し上げます。



社会福祉法人 清瀬市社会福祉協議会  
会長 山下 晃

## 第4次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会委員長あいさつ

人と人とのつながりを大切にしてきた地域福祉にとって、新型コロナウイルス感染症は大きな壁となり、さまざまな活動に大きな影響をもたらしました。しかし、一方でこれまでの活動を見直す機会となり、また新たな活動を創出するきっかけにもなっています。

例えば食糧支援として子育て世帯へのお弁当配布を障害者施設等の協力によって実施する等、第3次計画では想定していなかった取り組みが多く生まれました。これらは、同じ地域で困っている人がいるなら力になりたいと願う人々の思いを社会福祉協議会がつかないでいったものでもありません。

第4次計画の基本理念「思いが循環する やさしい清瀬」は、まさにこうした実践を表しており、さらに多くの人々の思いが繋がっていくことを目指したものです。

現在、国は地域共生社会の実現を目指して包括的支援体制の構築を図ろうとしています。それは、多機関多職種の横断的連携による相談支援、誰もが社会から排除されることのないようにしていく参加支援、多様な人々が協力しあえる地域づくりに向けた支援を一体的に展開していこうとするものです。

今期の計画では、これらを具体化していくための要として「地域福祉コーディネーターの配置」を重点プロジェクトに位置づけました。現在は法的根拠のない専門職ですが、東京都内をはじめ全国各地で配置が広がっており、地域福祉コーディネーターには、既存の制度やサービスでは対応しにくい問題も受け止め、地域内の多様な人々とともに生活を支えていく役割が求められます。また、これまで清瀬市社会福祉協議会では地域づくりの会を立ち上げて小地域での福祉活動を推進してきましたが、より一層の発展を目指して「小地域ごとの福祉推進組織づくり」も重点プロジェクトとしています。

すべては清瀬市で暮らす一人ひとりの幸せのためであり、この計画を機に少しでも市民の方々の悲しみや生きづらさが癒やされ、多くの幸せが広がることを願っています。



第4次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 菱沼 幹男

## 目次

### 第1章 地域福祉活動計画の概要

1. 計画策定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4  
    地域福祉活動計画とは  
    地域福祉活動計画がもつ性格  
    地域福祉活動計画推進の関係性  
    地域福祉活動計画の推進期間
2. 第3次清瀬市民地域福祉活動計画で取り組んできたこと・・・・・・・・・・ 5  
    取り組みの成果  
    課題
3. 今、私たちの地域にある声 ～調査や相談現場から見てきたこと～・・・ 6

### 第2章 第4次清瀬市民地域福祉活動計画で目指すもの

1. 計画の体系図と清瀬市での地域福祉推進モデル・・・・・・・・・・ 9
2. この5年間で重点的に取り組んでいくこと・・・・・・・・・・ 10  
    (1) 包括的な相談支援体制の構築・充実  
    (2) 小地域での地域づくりの推進基盤の整備
3. 具体的な取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14  
    基本目標1 人づくり  
    基本目標2 地域づくり  
    基本目標3 仕組みづくり
4. 計画の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

### 第3章 資料編

- ・ 清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会設置要綱・委員名簿・・・・・・・・ 22
- ・ 第4次清瀬市民地域福祉活動計画の策定過程・・・・・・・・・・・・ 24
- ・ 作業委員会概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- ・ 福祉のまちづくりアンケート調査概要・・・・・・・・・・・・ 27
- ・ 福祉のまちづくり懇談会概要・・・・・・・・・・・・ 32
- ・ 清瀬市社会福祉協議会の紹介・・・・・・・・・・・・ 34
- ・ 用語集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

\*地域活動等の紹介・・・

# 第1章 地域福祉活動計画の概要

## ■ 計画策定の考え方

### 1. 地域福祉活動計画とは

地域って⇒「地域の人みんな」

福祉って⇒「幸せ」「豊かな暮らし」

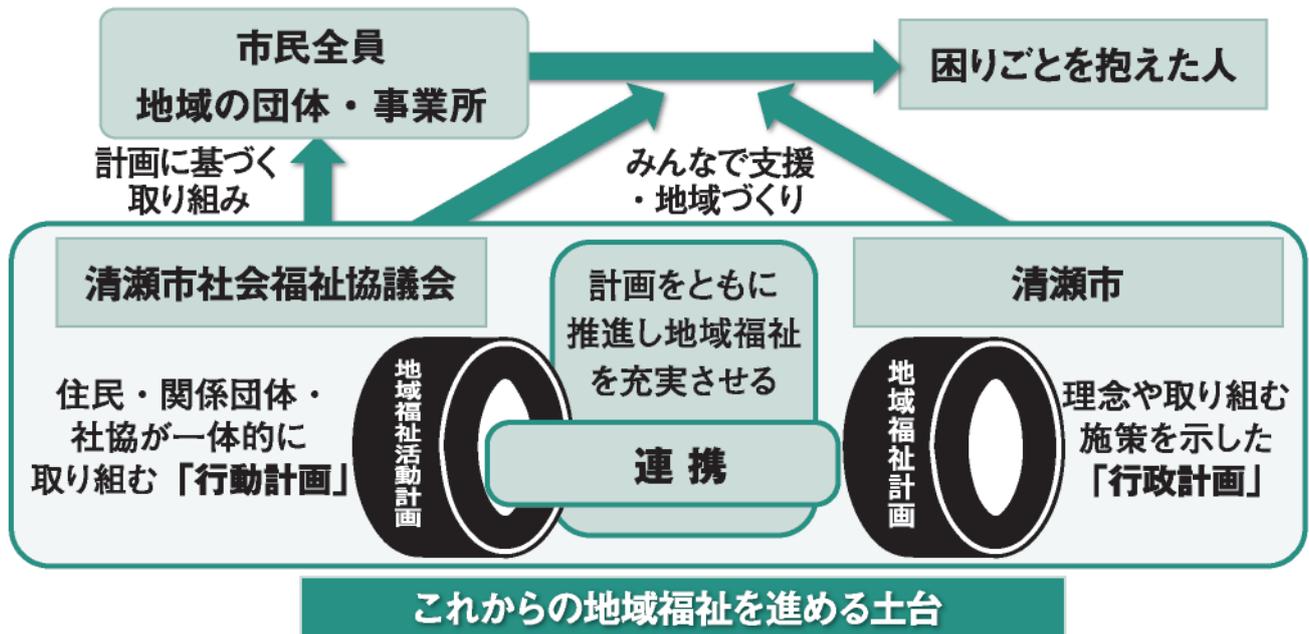
地域福祉は、地域の人みんなが協力して、だれもが「幸せ」に「豊かな暮らし」になるように目指していくことです。地域の困りごとや課題に対して「こんなふうに進めたい」ということを、目標を立てて取り組むのが地域福祉活動計画です。

### 2. 地域福祉活動計画がもつ性格

- (1) 地域をよくする取り組みが増えるよう、多様な主体で取り組む行動計画
- (2) 社会福祉協議会（社協）が地域に働きかけることによって、より効果が発揮される計画
- (3) 地域資源や仕組みづくりを通じ、民間の立場から行政の取り組みを促進する計画

### 3. 地域福祉活動計画推進の関係性

清瀬市が策定する地域福祉計画と車の両輪となって一体的に取り組みを進めます。



### 4. 地域福祉活動計画の推進期間

令和4（2022）年度から令和8（2026）年度までの5年間を計画期間とし、次回の計画策定では、地域福祉計画と一体的な策定を目指します。

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
地域福祉活動計画	第3次計画						第4次計画				第5次		
地域福祉計画							第4次計画				第5次		

## ■ 第3次清瀬市民地域福祉活動計画で取り組んできたこと

第3次清瀬市民地域福祉活動計画（平成28年～令和4年）では「支えあいの手をつなぎみんなでつくろう地域の輪～孤立のない地域を目指して～」をスローガンに、地域のあらゆる人が支え合いの気持ちを持つと同時に、支援を必要とする人もそうでない人も、地域とつながってイキイキと安心して暮らしていけることを目指し、4つの基本目標のもと、23の取り組みを進めてきました。



### 1. 取り組みの成果

- (1) 福祉のまちづくり懇談会（地域づくりの会）が複数エリアで始まる
- (2) 子ども食堂、ケアメンの集い、個別支援を通じ当事者参加の場が増える
- (3) 生活支援コーディネーターの配置が進み、介護予防の場づくりが広がる
- (4) 社会福祉法人の連携事業により身近な相談窓口の設置につながる
- (5) 特例貸付、フードバンク、子どもの食支援など、新しい困窮者支援の仕組み化

### 2. 課題

- (1) 地域学習の場と活動参加の場はコロナ禍により大幅に制限されている  
**今後の視点** ⇒ コロナ禍の継続を踏まえた、活動支援を行っていく
- (2) 地域ささえあいサポーターの考えが整理しきれず、取り組みが進まなかった  
**今後の視点** ⇒ 役割を整理し、担い手づくりに取り組む
- (3) 地域福祉コーディネーターの配置が進まなかった  
**今後の視点** ⇒ 制度動向や地域ニーズを踏まえ、清瀬市と協議を進める
- (4) 小中学生、高校生などが参加する地域活動を提唱できなかった  
**今後の視点** ⇒ 小地域での取り組みと併せて取り組みを考えていく
- (5) 福祉情報誌の提供ができなかった  
**今後の視点** ⇒ ICTスキル取得支援など、情報につながりやすい環境を作っていく

## ■今、私たちの地域にある声 ～調査や相談現場から見えてきたこと～

第3次計画の検証とともに、地域の中で課題となっていることの今を捉えなおすことにしました。子ども（小学6年生）、支援機関や地域活動団体等、支援を必要とすると考えられる方からのアンケート、新型コロナウイルス感染症の影響で減収・失業された方の生活福祉資金貸付相談等から見えてきた声を共有しながら、計画づくりに取り組みました。（ニーズ調査の詳細は、第3章 資料編をご覧ください。）

1. 既存の制度や仕組みでは、対応できていないことが増えている
  - ▶多様な主体と協働した取り組みやネットワークの創出が必要
  - ・ひきこもりや外国人、ヤングケアラー等の支援がない
  - ・ダブルケアや8050問題など複数の課題のある家族の支援
2. 行き届かない情報や急速なICT化への対応困難が増えている \*ICT（情報通信技術）
  - ▶情報弱者をなくす取り組みを進めることが必要
  - ・言葉の違いがある・福祉や地域活動の情報を知らない・デジタル機器の使い方が不安
3. ご近所力・家族の支援力が低下している
  - ▶地域を支える人を増やし小地域での支え合いを進めることが必要
  - ・介護者の高齢化・身近に家族がない・自治会加入率の低下・ご近所関係の希薄化
4. 多様な‘場’の不足
  - ▶人と人がつながる場をつくることが必要
  - ・安心できる居場所がない・コロナ禍で活動や交流の場が停止
5. 相談窓口の課題
  - ▶相談できない声を大事に受け止めることが必要
  - ・相談窓口が分からない・相談窓口が遠い・自ら声を発することが難しい方がいる
6. 支援を必要とする人への理解が不足している
  - ▶生きづらさを抱えた人の理解を進めることが必要
  - ・生きづらさを感じている方の理解が不足・参加の機会がない・孤立化
7. 権利擁護への対応
  - ▶どんな状態になっても自分らしい生活ができることが必要
  - ・判断能力に不安があっても自分らしく生活したい・虐待や権利侵害
8. コロナ禍で顕在化したニーズ、生活困窮者への対応
  - ▶必要な仕組みづくりを進める
  - ・必要な資源等の不足・活動や交流機会の減少・新たな生活ニーズの増加

【特例貸付・新型コロナウイルス感染症の影響による減収や失業された方への生活福祉資金貸付】

2020年3月より全国一斉に受付開始

- 緊急小口資金貸付額 169,950,000円（867件）
- 総合支援資金貸付額 757,450,000円（1094件）
- 約5割が40～50代からの相談。外国人の相談は約1割を超える。

※2021年12月迄 清瀬市のもの

# こんな取り組みを広げたい



当事者ととも福祉の理解を広げる 福祉教育



特技で活躍 地域を元気に



当事者同士 思いを共有し合い 支え合う



"いつか"に備える 防災の取り組み



笑顔が増える 子どもやママたちの居場所



"もったいない"から"ありがとう"へ フードバンク



言葉や文化を超えてつながり合う



商店や企業と寄付付き商品の企画・販売に取り組む

地域の力を合わせるとできることがたくさんありますね。第3次の活動計画をきっかけに進んだ取り組みもあります。



イメージキャラクター きよちゃん

## 策定委員の皆様より

この計画策定に参加し視野が広がりました。委員、事務局の皆様、お疲れさまでした。アンケートへの回答者、作業委員会・地域懇談会への出席者の皆様に感謝です。計画の推進へ共に。

副委員長 赤川 都

市民公募委員として参加しました。少しは私からもアイデアを出せたかと思います。これからもこの街で素敵な人生を過ごせるように皆様と一緒に考え・行動して行きたいと思います。

石崎 勇仁

都の地域福祉支援計画では「地域共生社会の実現」へ向けての取り組みが示され、この活動計画の在り方も更なる展開が期待されるでしょう。着実に計画を実践し、その上で清瀬にあった取り組みを今後の計画に反映させる必要があります。伊藤 淳一

公募委員の意見、調査や相談現場の声、パブリックコメント募集、懇談会開催など、市民皆さんの思いが込められた「活動計画」に仕上がってます。あたたかいうちにご賞味ください！

岩崎 雅美

委員の皆様の熱い郷土愛に感激しました。清瀬を愛する気持ちにあふれた素晴らしい計画が出来上がったと思います。「思いが循環する やさしい清瀬」が実現することを祈念いたします。

小滝 一幸

第4次清瀬市民地域福祉活動計画では、調査回答や懇談会等での声をもとに地域課題を解決する仕組みづくりを目指して、3点の目標を位置づけました。各市民の皆様へ感謝し、ご理解とご支援をいただければ幸いです。後藤 清

計画策定に関わらせていただき、多くのことを学ばせていただきました。市民の思いが詰まったこの計画を通して、清瀬が一層やさしさに包まれた素敵な街となることを願っています。

齋藤 靖之

充実した計画が策定されました。だれもが自分らしく地域で暮らせるよう、計画にある「人づくり」「地域づくり」「仕組みづくり」を共に着実にすすめていきましょう。

高橋 紘之

コロナ禍で人のつながりが希薄になっている中で、どのような取り組みが孤立のない地域につながるのかを模索する良い機会となりました。参加させていただきありがとうございました。

土屋テル子

この計画の策定会議に参加していつも感じていたのは、委員の皆様の、地元に対する熱い思いでした。私自身も、生まれ育った清瀬をあらためて見つめ直す良い機会となりました。

長嶋 潤

福祉関係者（学識経験者、行政・現場、専門家など）と一般市民の方が、立場を超えて協働して、課題に取り組むことが、「福祉」にとって意義のあることだと改めて感じました。

林 清

孤立させず誰をも排除しない社会、毎日の生活を支え助けあえる仕組みを創らなければ少子化も虐待もとまらない。目指すは世代間交流と顔の見える関係作り！皆さんとの出会いに感謝！

増田恵美子

委員に任命され、今まで以上に福祉の大変さに気づかされました。これからの社会、いろいろな人が福祉に携わっていける社会が出来たらよいと思います。

麦倉 稔

「自分にはあまり関係ない」と思っていた私が、果たしてこの場においていいものかと思いつつながら参加して1年。回を重ねるごとに、委員としてかかわることができて大変光栄に思うようになりました。

山村 康一

コロナ禍やウクライナ問題に起因する物価高騰等の問題など、社会情勢は不透明ですが、新しい計画を進めることにより、より良い地域福祉の実現と明るい未来を目指していければと思います。

渡邊 浩志



## 第2章 第4次清瀬市民地域福祉活動計画で目指すもの

### ■計画の体系図と清瀬市での地域福祉推進モデル

第3次計画で取り組んできたことをさらに発展させていくとともに、コロナ禍での地域づくりを見直しながら、これからの5年間の取り組みを考えます。

この計画で大事にしていきたいことを「基本理念」とし、その考えを実現していくために、3つの「基本目標」と9つの「取り組みの方向性」を定めました。また、2つの「重点プロジェクト」は、本計画の中心的な考え方として取り組んでいくものとなります。

#### 基本理念

おも おも じゅん かん じゅん かん 思いが循環する やさしい きよ せ 清瀬  
 ~ じ ぶん じ ぶん 自分のために が ひと ひと のために ~

#### 基本目標① 人づくり

自分らしく心地よく暮らす

自身のこと、地域のこと、社会福祉に関する学びを深め、誰もが参加・活躍・安心して暮らせる人づくりに取り組みます

- 1：社会福祉に関心を持ち、自ら備える力を育みます
- 2：自分にできることを活かした参加の機会を広げます
- 3：地域生活を支える担い手をつくります

#### 重点プロジェクト

包括的な相談支援体制の構築・充実

小地域での地域づくりの推進基盤の整備

#### 基本目標② 地域づくり

多種多様なネットワークとともに、身近な地域での支え合いをすすめ、孤立のない地域づくりに取り組みます

- 4：身近な地域での基盤をつくり、支え合いの仕組みづくりを進めます
- 5：分野を超えた多種多様なつながりを広げ、地域のネットワークで生活を支えます
- 6：活動や情報の「見える化」をすすめ、情報が行き交う地域づくりに取り組みます

見守り、支え合いの地域基盤をつくる

#### 基本目標③ 仕組みづくり

複数層で小さな声の発見・受け止め、必要な支援の仕組みづくりにつなげます

- 7：一人ひとりの声を受け止める機会をつくり、必要とされる仕組みづくりにつなげます
- 8：多様なニーズに柔軟に対応するなど、その人らしい尊厳ある暮らしを支援します
- 9：一人ひとりの多様性が活かされる場をつくっていきます

地域と専門職、それぞれができることをつなぐ

## この5年間で重点的に取り組んでいくこと

安心して暮らせる地域となるために、2つの重点プロジェクトに取り組んでいきます。

### (1) 包括的な相談支援体制の構築・充実

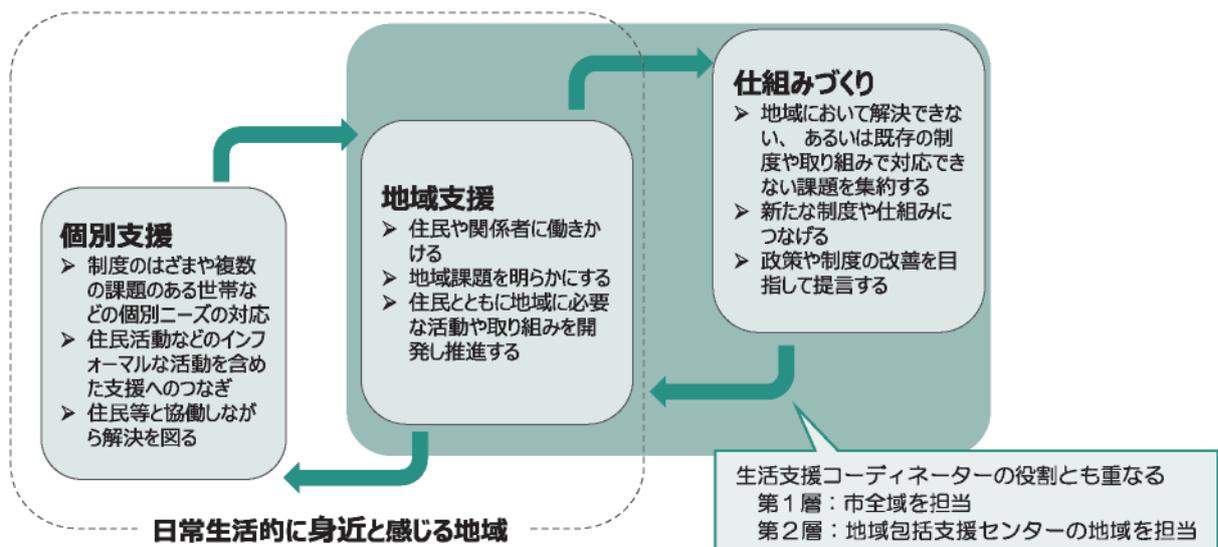
地域に暮らす方の生活課題は多様化、複雑化してきています。自ら困りごとを発信することが難しい方や身近に頼りになる方がいないなどといった社会的孤立や、地域からの排除など様々な問題もあります。また、相談支援機関につながっていても、多岐にわたる課題があるために一つの相談機関だけでは支えることができないケースや制度のはざまに課題が置かれるケースもあります。また、相談支援から漏れている方の声、声なき声も受け止めていく体制づくりが求められます。

包括的な相談支援に関わる専門職が分野を超えて連携することとあわせ、地域福祉コーディネーターの機能が加わることにより、第3次計画で芽吹いた社会福祉法人の連携事業（きよせの社福※）や地域づくりの会の取り組み、生活支援コーディネーターの取り組みなどがつながり、本人や家族を丸ごと支えていくチーム作りや、早期発見や予防的な地域づくり、本人らしい居場所づくりなどに取り組んでいくことができます。

#### ポイント

- ⚙️ 共通アセスメントシートの活用
  - ▶ 本人や家族全体を捉え、複数の相談機関等の連携を促進します
- ⚙️ 地域の多様な主体との連携・協働
  - ▶ 支援体制の充実とともに、早期発見、孤立防止の地域づくりを促進します
- ⚙️ 地域福祉コーディネーターの配置
  - ▶ 制度のはざまの課題を受け止める相談支援を行うとともに、複数の課題をもつ世帯を支えるために必要な相談機関等をつなぎ、多様な資源と協働して必要な資源の創出につなげます

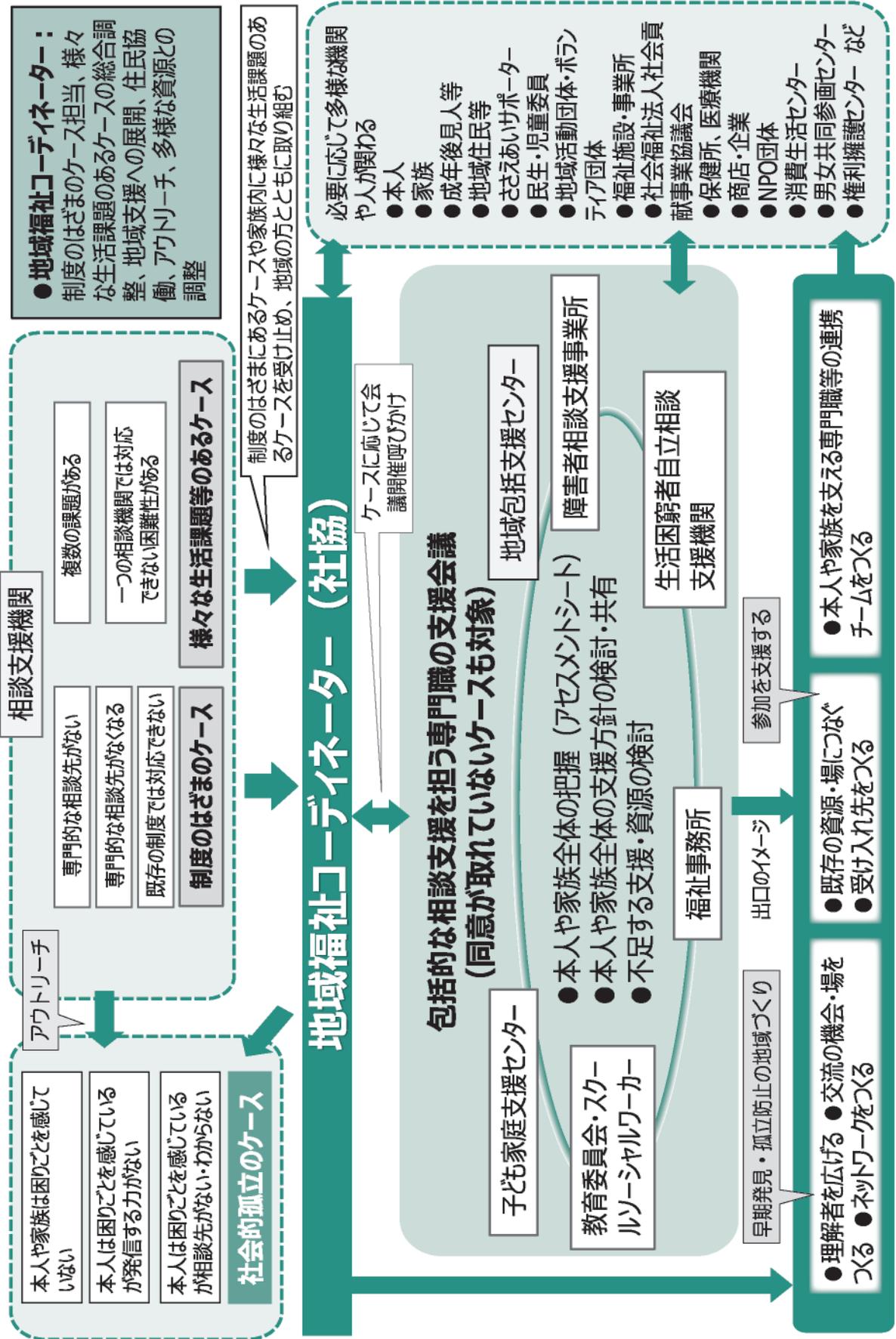
#### 「地域福祉コーディネーターのイメージ」



※きよせの社福（清瀬市社会福祉法人社会貢献事業協議会）は、社会福祉法人の持つ専門性や設備などの力を活かして地域公益的な活動に取り組む社会福祉法人のネットワークです。「ひとまず相談」や資源帳の発行、情報発信等に取り組んでいます。

重点的な取り組みイメージ図①

# 包括的な相談支援を担う専門職の連携 ～地域福祉コーディネーターの機能を活かして～



## (2) 小地域での地域づくりの推進基盤の整備

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、公的なサービスだけでなく、ちょっとしたことを身近な人たちで助け合うことが大切です。一人では実現できないことも、人と人が関わらうことで新しい考えや取り組みが生まれる力となります。さらには、排除されがちな人たちと日常的な関わりを積み重ねることによって、理解が進み、様々な生きづらさを抱えた方や孤立に悩む方にとっても生きやすい地域となっていくでしょう。

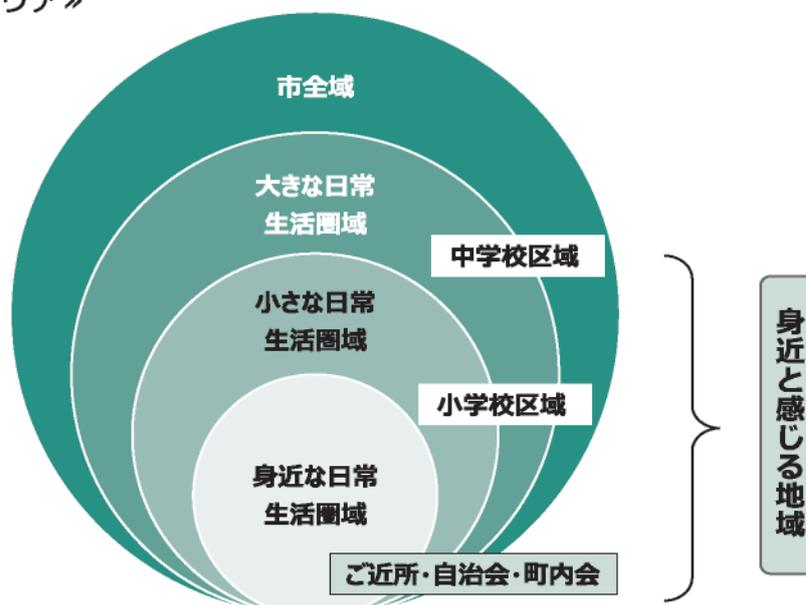
わがまちの地域づくりの単位は「小学校区」として、計画に位置付けました。その身近な地域で、高齢者や子ども、障害者、外国籍の方、生きづらさを抱えた方など、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指して、住民や団体、学校、関係機関、商店や企業など多様な主体が関わり、福祉活動を推進する基盤を整えていきます。

そして、第3次計画で取り組んできた地域づくりの会（円卓会議）の取り組みを発展させるとともに、主に高齢者の介護予防・生活支援に取り組む生活支援コーディネーターや学校と地域をつなげる学校支援コーディネーター、清瀬市、社協が、連携・協力しあう地域支援チームをつくり、基盤整備や新しい仕組みづくりなど支援していきます。

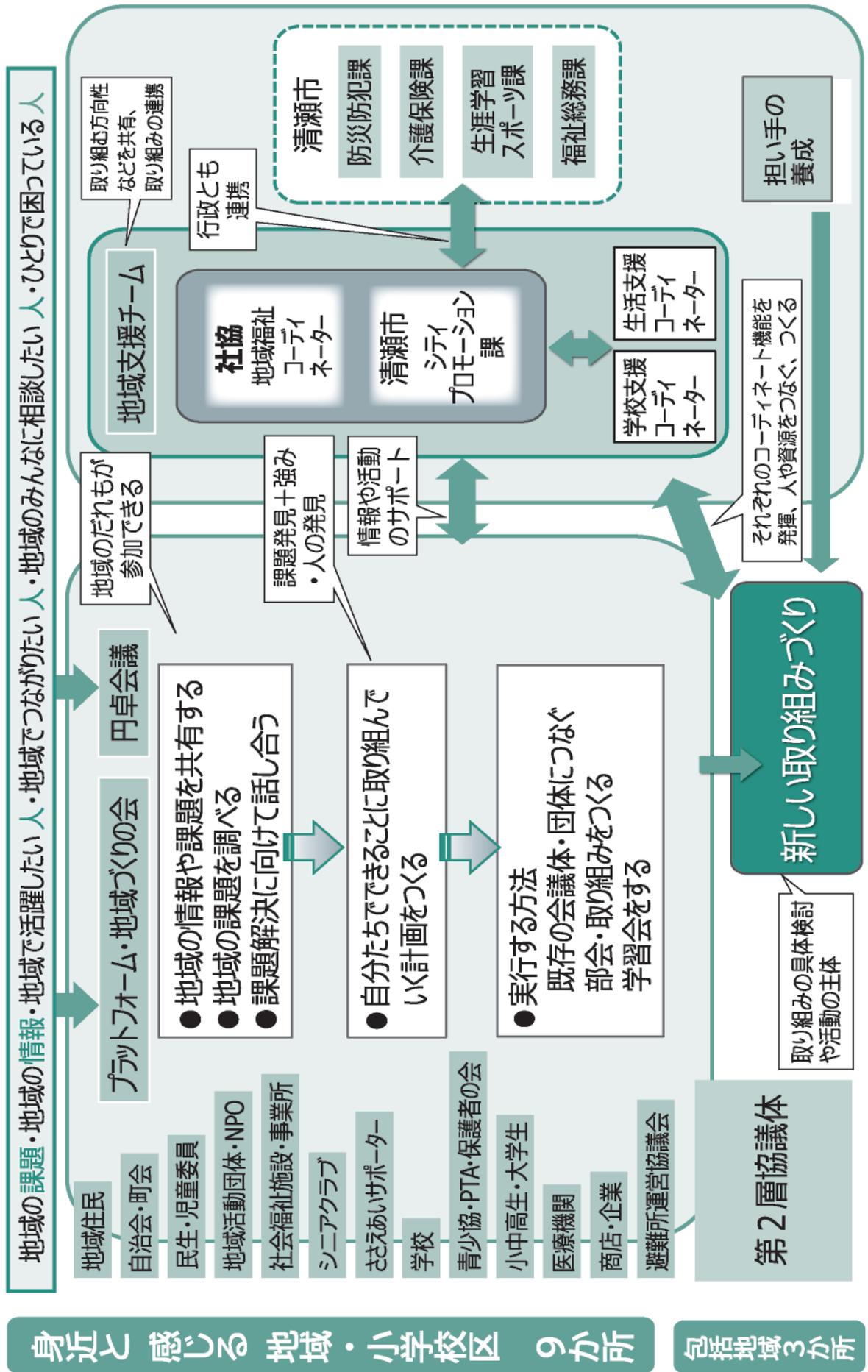
### ポイント

- 課題把握から解決へ
  - ▶ 小地域で地域の課題を調べ、共有し、課題解決に向けた取り組みをともに考えていきます
- ささえあいサポーターの養成
  - ▶ サポーターとなる地域の方とともに、地域づくりや取り組みづくりをすすめます
- 多様な人を巻き込む
  - ▶ 支援が必要と考えられる方も含めて、多様な人の参加をすすめます
- 地域支援チームによる支援
  - ▶ 地域づくりに関わるコーディネーターや清瀬市がチームとなってサポートします
- モデル地区の設置
  - ▶ 支え合い活動を進めるモデル地区を設定して取り組み、段階的に広げていきます

《身近と感じるエリア》



# 小地域ごとの福祉推進組織づくり ～わがまちづくり・困ったときでも暮らしたい～



## ■具体的な取り組み

### 基本目標①

# 人づくり

自身のこと、地域のこと、社会福祉の学びを深め、誰もが参加・活躍・安心して暮らせる人づくりに取り組みます。

- 取り組みの方向性1：社会福祉に関心を持ち、自ら備える力を育みます  
社会福祉に関心を持つことは、自助の力を高めるとともに、ボランティアなどの参加につながる一歩になります。学びの場を提供し、市民の力を育みます。

具体的な取り組み	内容
ボランティアに気軽につながる場	活動者のお話し会・相談会や体験会を定期的実施する。例) 市民活動親子体験会 など
【評価指標】□相談会・お話し会実施回数 □参加者数 □ボランティアにつながった数	
【目標(成果)】新しい担い手が増える	

暮らしの講座	加齢等により生じる問題への備えにつながる講座。例) 運転免許返納後の生活 エンディングノート
【評価指標】□講座実施回数 □参加人数	
【目標(成果)】新しいテーマ性を持った学びの機会が増える	

防災自助・共助セミナー、情報発信	自らの備えと、避難行動要支援者などへの支援につながる学びの場と体験の場をつくる。
【評価指標】□セミナー等実施回数 □参加者数	
【目標(成果)】学んだ人が増える	

- 取り組みの方向性2：自分にできることを活かした参加の機会を広げます  
それぞれが持っている力を活かし、地域のために関わる機会を増やし、多様な地域貢献につなげていくことで、地域課題や困りごとを抱えた方の力になります。

具体的な取り組み	内容
特技バンク	社会福祉に限らず特技やできることを登録。例) マッチングサイトの開設や交流会など
【評価指標】□登録者数 □活動につながった数	
【目標(成果)】実際の活動につながる	

デジタルボランティア	誰もが情報を取得しやすい環境をつくるため、支援に関わるボランティアを養成する
【評価指標】□登録者数 □支援実施回数	
【目標(成果)】実際の活動につながる	

まちかどゼミナール	事業者や市民活動者等がもつ力を活かして、市民向けの学びあいと社会参加の場をつくる。
【評価指標】□講座実施回数 □協力者数	
【目標(成果)】協力者・理解者が増える	

福祉協力店の拡充	商店が日常的にできる社会貢献の場を広げる 例) 募金百貨店 情報ラック設置 寄付支援など
【評価指標】□説明会実施回数 □メニュー種類 □協力店数	
【目標(成果)】協力者が増える	

当事者スピーカーの活躍機会づくり	生きづらさを抱えた当事者などが自らの経験や思いを話す場を作り、相互理解へとつなげていく。
【評価指標】□活躍機会の回数 □スピーカーの人数 □参加者数	
【目標(成果)】理解者が増える	

### ●取り組みの方向性3：地域生活を支える担い手をつくります

困りごとを持った方や孤立しがちな方への見守りや支援に関わる担い手づくりに取り組み、市民が支える地域づくりを目指します。

具体的な取り組み	内容
ささえあいサポーター「おせっかいさん」の養成	地域でアンテナ役や気になる人の見守り役を担うとともに、ニーズに応じ活動を広げる。
【評価指標】□養成講座実施回数 □参加者数 □登録者数 □活動回数	
【目標(成果)】実際の活動につながる	

権利擁護サポーターの充実	権利擁護の視点を持った市民とともに、判断能力に不安がある方の生活を支える。 *市民成年後見人、法人後見事業の後見支援員等
【評価指標】□養成講座実施回数 □参加者数 □登録者数 □支援実施回数	
【目標(成果)】権利擁護の視点を持った市民が増える	

## 5年後の地域の姿

### ★ともに生きる地域になる

**STEP 1** 地域や福祉との接点が増える

**STEP 2** 場に参加する人が増え、交流が増える

**STEP 3** 多様な主体との取り組みが増える

**STEP 4** 活躍できる場が広がる

**STEP 5** 理解が広がる

## コラム

### 福祉施設の利用者が 地域の困りごと解決の力になる ～ひだまりの里きよせの取り組み～

「オタスケ君」は、ひだまりの里きよせがお近くにお住いの高齢の方やお身体の不自由な方のゴミ捨てや買い物等を代行するサービスです。初めは施設駐車場で毎週開催している野菜市にて、購入した野菜を自宅まで持ち帰ることが大変な方への配送サービスとしてスタートしました。現在はゴミ捨てを希望される方のお宅に毎週決まった曜日・時間、施設の利用者さんと職員が訪問しゴミをお預かりして集積場に運んでいます。高齢の方の見守り支援の一翼も担っています。これからも地域とのつながりを大切に「オタスケ君」を続けていきたいと思っています。



# 地域づくり

多種多様なネットワークとともに、身近な地域での支え合いをすすめ、孤立のない地域づくりに取り組みます。

●取り組みの方向性4：身近な地域での基盤をつくり、支え合いの仕組みづくりを進めます

近隣住民が知り合い、支え合える小地域単位の基盤づくりを進め、支える側も支えられる側もともに地域づくりを進めます。

具体的な取り組み	内容
小地域ごとの福祉推進組織づくり	小学校区をエリアとして様々な人が集まり、地域情報の共有や地域の課題を話し合う場をつくり、新しい取り組みづくりにつなげる。 *モデル地区を設定
【評価指標】□組織づくりに向けた話し合いの開催回数 □組織ができた地域数	
【目標（成果）】・モデル地区において福祉推進組織ができる ・複数地域に広がる	

●取り組みの方向性5：分野を超えた多種多様なつながりを広げ、地域のネットワークで生活を支えます

公的な制度や相談は、年齢や状態などにより対応できないこともあります。一つの機関や分野だけでなく、地域の中で横につながりあうことで、複数層で受け止めていく体制づくりに取り組みます。

具体的な取り組み	内容
きよせの社福（社会福祉法人社会貢献事業協議会）の充実	社会福祉法人のネットワークを強化し、地域課題解決に向け、必要な支援の検討や資源づくりに取り組む。
【評価指標】□運営会議・部会開催回数 □事業数	
【目標（成果）】・地域ニーズに応じた新たな連携事業の検討につながる ・小地域ごとの福祉推進組織、包括的な相談支援体制と連携・連動できる	

包括的な相談支援を担う専門職ネットワーク会議・支援会議	制度のはざまや複数の生活課題のあるケースへの対応など、既存の機関では対応が困難な支援について、包括的な相談支援を担う専門機関が連携して検討する場をつくる。
【評価指標】□支援会議開催回数	
【目標（成果）】・支援会議が定着する・地域福祉コーディネーターと連携できる	

地域づくりに関わるコーディネーター等の地域支援会議	円卓会議・地域づくりの会や地域活動等の支援を行うため、地域づくりに関わるコーディネーターと行政機関からなる地域支援会議を実施する。
【評価指標】□地域支援会議の開催回数	
【目標（成果）】・地域支援会議が定着する・地域支援チームによる支援ができる	

●取り組みの方向性6：活動や情報の「見える化」を進め、情報が行き交う地域づくりに取り組みます

コロナ禍でも情報が滞らないように、市民とともに情報発信の仕組みを考え、取り組みます。

具体的な取り組み	内容
情報発信ツールの拡充	情報が行き交うように、小地域ごとの福祉推進組織の持つ力、障害や言語の理解を助ける市民、大学生とともに、情報発信に取り組む。 *広報誌、SNS、電子回覧板、地域新聞
【評価指標】	□情報発信ツールの種類 □発信回数
【目標(成果)】	情報発信ツールが広がる

5年後の地域の姿

★ともに生きる地域になる

- STEP 1** 人や情報が集まる、顔見知りが増える
- STEP 2** 地域課題や困ったことも共有しあえる
- STEP 3** 課題解決の取り組みを考える場になる
- STEP 4** 取り組みができる・増える
- STEP 5** 支え合う地域になる

コラム

身近な地域で課題・情報共有や解決に向けて取り組む

～小学校区ごとの円卓会議・地域づくりの会の取り組み～

自治会加入率の低下とともに、自治会会員の高齢化、人間関係の希薄化も課題となっています。新たなコミュニティの基盤が必要、と清瀬市は円卓会議の取り組みをはじめ、社会福祉協議会では福祉のまちづくり懇談会をはじめました。いずれも、小学校区を単位として地域住民が主体となった地域基盤をつくるという共通項から、「地域づくりの会」を共に取り組んでいくことになりました。

現在、市内には9つの円卓会議・地域づくりの会があります。それぞれの地域で、必要な取り組みを考え、地域づくりに取り組んでいます。



地域のつながりを広げるイベント



高齢者の理解を広げる取り組み

コラム

暮らしの中のちょっと困ったことに寄り添う社会福祉法人

～清瀬市社会福祉法人社会貢献事業協議会「きよせの社福」の取り組み～

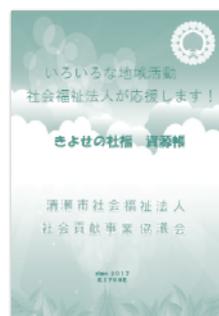
地域には、相談機関につながっていないお困りごとや、今ある制度では対応ができないお困りごとがいろいろあるはず。そして、社会福祉法人が力になれることもいろいろあるはず。

清瀬市内の22の社会福祉法人がつながりあい、①身近なところでどんな相談でも受け止める「ひとまず相談窓口」の設置、②地域の活動を応援する「資源帳」の作成、③福祉教育・人材育成、④広報・情報発信に取り組んでいます。

また、新たな課題を共有したときは、解決に向けた話し合いを重ね、地域の中でさまざまな生きづらさを理解しあい、共に生活していく地域づくりのために、「きよせの社福」は取り組みを続けています。



きよせの社福 シンボルマーク



## 基本目標③

# 仕組みづくり

複数層で小さな声の発見・受け止め、必要な支援の仕組みづくりにつなげます。

- 取り組みの方向性7：一人ひとりの声を受け止める機会をつくり、必要とされる支援や資源づくりにつなげます

相談の機会や場を増やし、声の発見と早期相談につなげます。多様な資源や人と協働し、個別支援から課題を解決するための資源創出に取り組みます。

具体的な取り組み	内容
地域福祉コーディネーターの配置	制度のはざまにある課題や複数の生活課題のあるケースへの相談などに対応する。個別支援とともに、ささえあいサポーターや地域、専門職、生活支援コーディネーター等と連携して必要な資源づくりや地域支援に取り組む。
【評価指標】 <input type="checkbox"/> 配置人数 <input type="checkbox"/> 相談受付数 <input type="checkbox"/> 支援回数	
【目標(成果)】制度のはざまにあるケースへの支援につながる	

地域なんでも相談	身近な地域に出向いて巡回相談を実施する。ひとまず相談窓口やささえあいサポーター、民生・児童委員等とともに取り組む。
【評価指標】 <input type="checkbox"/> 実施回数 <input type="checkbox"/> 相談受付数	
【目標(成果)】早期発見・早期相談につながる	

地域のアンテナ拠点	人や情報が繋がる地域のアンテナ拠点をつくる。
【評価指標】 <input type="checkbox"/> 拠点数 <input type="checkbox"/> 開催数	
【目標(成果)】人や情報が広がる	

財源づくり（共同募金、社協会費、テーマ型募金）	地域の方とともに、地域活動や支援活動など地域福祉推進に必要な財源づくりに取り組む。
【評価指標】 <input type="checkbox"/> 募金額・社協会費額	
【目標(成果)】募金額が増える	

- 取り組みの方向性8：多様なニーズに柔軟に対応するなど、その人らしい尊厳ある暮らしを支援します

困りごとを持った方や孤立しがちな方に対して、必要な見守りや支援の仕組みづくりに取り組みます。

具体的な取り組み	内容
生活支援サービスの充実	ふれんどサービスなどの生活支援サービスを新たなニーズに応じて拡充・創設する。 例：外国人、病気がちな方などへの支援
【評価指標】 <input type="checkbox"/> サービス対象拡充による支援対象者数	
【目標(成果)】必要な支援が増える	

ふれあいコールの拡充	独居高齢者だけでなく、孤立しがちな層に拡充して電話訪問を行う。
【評価指標】□サービス対象拡充による支援対象者数	
【目標（成果）】対象者が増える	

●取り組みの方向性9：一人ひとりの多様性が活かされる場をつくっていきま  
 思いを話せる場や、それぞれの人が持ちうる力を発揮できる場や交流できる場づくりに取り  
 組みます。

具体的な取り組み	内容
本人・当事者ミーティング	当事者の思いを分かち合う場づくりに取り組む。 例) ひきこもり家族会など
【評価指標】□開催回数 □種類・テーマ数	
【目標（成果）】必要な場が増える	

だれでもボランティアサロン	軽作業を通して人との交流を図りながら、新しい居場所と役割創出につなげる。
【評価指標】□開催回数 □参加人数	
【目標（成果）】・サロンができる・ニーズに応じたプログラム展開ができる	

第三の居場所づくり	学校や職場に馴染めなかったり、家族や地域との接点が少ない人たちを受け止め、参加できる場づくりに取り組む。
【評価指標】□居場所の数 □参加人数	
【目標（成果）】必要な居場所ができる	

### 5年後の地域の姿

★ちょっとした困りごとを言える地域になる  
 ★包括的な相談支援体制ができる

- STEP 1** ちょっとした困りごとを発信できる
- STEP 2** 小さな声や気づきをひとまず受けとめる場が増える
- STEP 3** 困難な課題を共有する場が増える
- STEP 4** ネットワークや新しい資源が増える
- STEP 5** 地域と専門職の協働が増え、地域支援の力が高まる

### 期待される役割

困りごとに寄り添い、力になる  
 ～地域福祉コーディネーター～

「地域福祉コーディネーター」は暮らしのことすべてのご相談に対して、一人ひとりの生活や思いに寄り添いながら、地域の皆さんや関係機関・団体等と協力して、解決に向けたお手伝いをします。

子は心の悩みを抱えて数年ひきこもっています



親は認知症の症状が出ていますが、サービスを拒否しています

どのように声をかければよいの？



二人のケアと仕事の両立は大変！

- こんなとき「地域福祉コーディネーター」は・・・
- ▶親の介護について地域包括支援センターにつなぎます。
  - ▶地域の皆さんと協力して、見守りの体制を創ります。
  - ▶ひきこもっている方の家族同士がつながる場や学ぶ場を創ります。
  - ▶子の悩みを伺い、思いに寄り添います。目指したい生活について一緒に考え、取り組みます。

## ■ 計画の推進

### 1. 計画の共有と周知

#### (1) 市民・関係機関との共有

- ①概要版を作成し、関係機関への配布、地域づくりの会などでの説明を行います。
- ②地域福祉フォーラムを開催し、計画の考え方を周知するとともに、地域を良くする取り組みを紹介し、計画の目指すべき方向性を共有します。

#### (2) 社会福祉協議会内での共有

職員研修会を実施し計画の目指すべき方向性を共有します。また、事業ごとに設置されている委員会でも内容の共有を図ります。

### 2. 計画の評価

#### (1) 評価指標の作成

取り組みごとに評価の指標とする項目と目標を設定し、事業を推進します。

#### (2) 実施内容のチェック

進捗状況について評価指標に基づき自己評価を行い、計画の推進状況を確認します。評価指標では数的評価が中心になっていますが、質的評価にも焦点をあて評価していきます。

#### (3) 次年度事業計画への反映

進捗状況に応じ、必要に応じ計画の推進方法を見直し、次年度事業計画に反映していきます。

### 3. 推進評価委員会

策定に関わった委員からなる推進評価委員会を設置し、年1回、計画の進捗状況进行评估するとともに、推進における課題や目指すべき方向性を確認し、必要に応じ取り組みの見直しを行います。

### 4. 人員体制

計画を推進していくためには必要な人員体制の整備が必須になります。この計画推進には、地域福祉コーディネーターの配置が大前提になるため、清瀬市と綿密に協議を重ねながら、取り組みを進める基盤づくりを行います。